

山岳少数民族モンの民家の生活空間の構成

日大生産工(院) ○井手 優汰
同(研究員) 片岡 菜苗子
同 篠崎 健一

1. はじめに

本研究は、これまでの研究成果^{1),2)}の上にたち、ラオス国北部山岳地域に住む少数民族モンの住居の形態の生成秩序を、空間図式に基づいて解釈することを目的とし、本稿は、そのために、モンの住居の空間構成を整理して報告する。研究フィールドであるゲオパトゥ村は、モンの村としては古く、人々は100年以上前から定住し生活している。現在（2018年6月時点）住居は78戸である。^{注1)}

2. モンの住居の基本構成

モンの住居は、かつては一棟建てであった³⁾が、ゲオパトゥ村のモンの住居は、一棟建てが13戸しかなく複数棟から成る住居が多数で、二棟建ての住居が62戸三棟建ての住居が3戸である。

2.1 注目すべき住居の要素

モンの信仰は、祖先崇拝と精霊崇拝の混合した多様な原始的宗教の特徴をあわせもつ³⁾。どの住居にも必ず、先祖を祀り家と家族を守るシンボルであるスカという札があり、その正面には必ずコッチョンタという主な出入り口の戸がある。スカとコッチョンタを結ぶ軸線のほぼ中央の軸とは重ならない位置に、家の構造とは関係のないジェッタという柱が立つ。ジェッタは、天地のつながりをあらわし、先祖が家の繁栄を護るシンボルである。

調査拠点とするサイガウ・ローの住居（ce01）^{注2)}では、新年の儀式において、これらの場所に線香を立て祈禱する。線香を焚く場所は、この他に、コッチョンツァ（棟と棟をつなぐ、外と内をつなぐ戸）、竈、炉である。これらの信仰のシンボルとなる場所に、来客時に使用する客用寝台、長テーブルや長椅子を加えた住居の要素を重要と考え、本考察で対象とする空間構成要素とする。

3. 調査方法

筆者らは調査協力者^{注4)}同行のもと2013年より継続的に村を訪れ、集落を徒歩で周回し、集落や住居の空間をビデオや写真により記録した。調査の実感や気づきも記録した。

ゲオパトゥ村の全戸を、1) 住居の形態と大きさ、を実測、確認、記録し、2) 調査可能な限り、住居内部及び周辺的生活空間を確認し、記録する。1) と2) で得られた記録をもとに各住居の実測平面図を作成する。2で記した注目すべき住居の空間構成要素

に注目するだけでなく、住居の内外問わず、生活のありのままを平面図に描き入れる。平面図に表現できないものごとは、詳細な記述によって補う。これを住空間シートと呼ぶ。住空間シートの一部を図1に示す。

4. 調査結果

調査概要を表1に示す。

表1 調査概要

調査日	調査内容
第1回調査 2013.3.18-21	①全般的なモンの生活へのコンタクト ②数軒の住居の実測調査と聞き取り調査により、モンの住居空間を捉える
第2回調査 2013.10.31-11.07	①集落空間の全般的な情報収集 ②さらに数軒の住居の実測調査と聞き取り調査により、モンの住居空間を捉える
第3回調査 2016.6.13-18	①スカ・コッチョンタ軸と住居と地形の関係についての悉皆調査 ②住居空間調査（実測及び聞き取り）
第4回調査 2016.11.28-12.01	①構成した空間認識の推論の検証と修正に必要な情報の収集 ②住居空間調査（実測及び聞き取り）
第5回調査 2017.11.16-20	①スカ・コッチョンタ軸と住居の形態確認の悉皆調査 ②住居空間調査（実測及び聞き取り）
第6回調査 2018.06.15-18	①住居内部及び周辺的生活空間の情報収集 ②住居空間調査（実測及び聞き取り）

5. まとめ

ゲオパトゥ村のモンの住居の重要な空間構成要素を抽出し、その関係に注目して住居とその周辺的生活空間を整理した。

謝辞

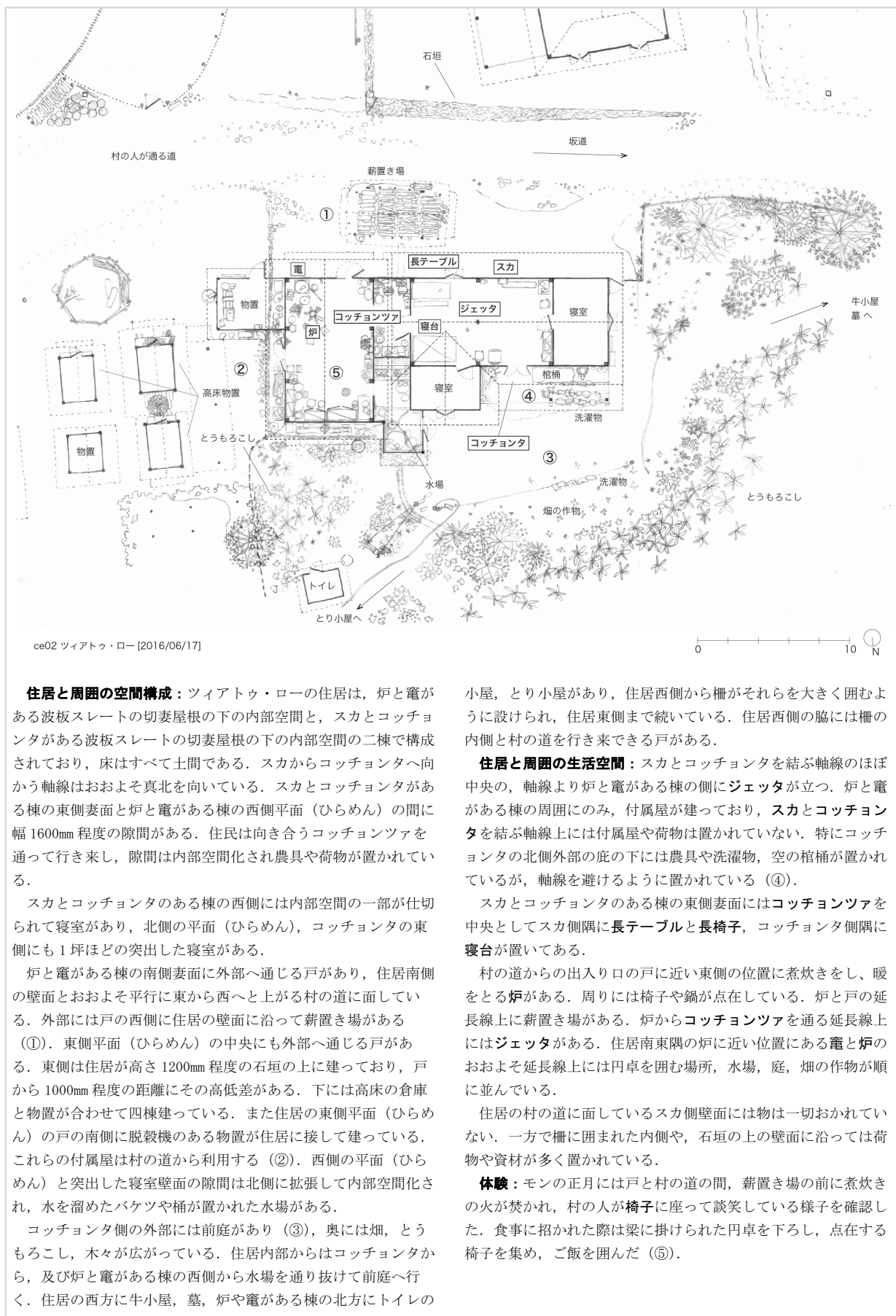
本研究は、東京工業大学藤井晴行研究室と共同で行っている。関係者に謝意を表す。

参考文献

- 1) 篠崎健一、藤井晴行、片岡菜苗子、石井孝宣、高橋祐太：ラオス北部ゲオパトゥ村のモンの住居と地形の関係(山岳少数民族モンの集落空間構成の基本となる空間図式の探究)、日本建築学会計画系論文集 第82巻、第741号、pp. 2827-2836、2017. 11
- 2) 片岡菜苗子、篠崎健一、藤井晴行、石井孝宣、高橋祐太：ラオス・ゲオパトゥ村のモンの住居の突出部分に注目した民家の構成の分類(モンの家のかたちの探究)、日本建築学会2017大会梗概集、2017
- 3) Cooper, Robert: THE HMONG a guide to traditional life, Lao-InsightBooks, 2008, Vientiane, Laos

注釈

- 1) 各住居に番号（ce01～ce16, mi01～mi06, ea01～ea19, no01～no21, we01～we11, va01～va09）を与えている。2016年6月時は世帯数81であったが、2018年6月時は世帯数は78である。
- 2) サイガウ・ローの住居は村の中心に位置する。長老として人々をまとめ、率先して働くリーダーであった。
- 3) 安井清子氏は、ゲオパトゥ村において、2006年から子どもたちの図書館建設とその後の運営支援を行っている。長期の交流により信頼関係が構築されている。この訳者であり協力者の存在により、調査データの追確認、理解が可能となる。また過去の情報参照も可能となる。



住居と周囲の空間構成：ツィアトゥ・ローの住居は、炉と竈がある波板スレートの切妻屋根の下の内部空間と、スカとコッチョンタがある波板スレートの切妻屋根の下の内部空間の二棟で構成されており、床はすべて土間である。スカからコッチョンタへ向かう軸線はおおよそ真北を向いている。スカとコッチョンタがある棟の東側妻面と炉と竈がある棟の西側平面（ひらめん）の間に幅 1600mm 程度の隙間がある。住民は向き合うコッチョンツァを通して行き来し、隙間は内部空間化され農具や荷物が置かれている。

スカとコッチョンタのある棟の西側には内部空間の一部が仕切られて寝室があり、北側の平面（ひらめん）、コッチョンタの東側にも 1 坪ほどの突出した寝室がある。

炉と竈がある棟の南側妻面に外部へ通じる戸があり、住居南側の壁面とおおよそ平行に東から西へと上がる村の道に面している。外部には戸の西側に住居の壁面に沿って薪置き場がある

①．東側平面（ひらめん）の中央にも外部へ通じる戸がある。東側は住居が高さ 1200mm 程度の石垣の上に建っており、戸から 1000mm 程度の距離にその高低差がある。下には高床の倉庫と物置が合わせて四棟建っている。また住居の東側平面（ひらめん）の戸の南側に脱穀機のある物置が住居に接して建っている。これらの付属屋は村の道から利用する ②．西側の平面（ひらめん）と突出した寝室壁面の隙間は北側に拡張して内部空間化され、水を溜めたバケツや桶が置かれた水場がある。

コッチョンタ側の外部には前庭があり ③．奥には畑、とうもろこし、木々が広がっている。住居内部からはコッチョンタから、及び炉と竈がある棟の西側から水場を通り抜けて前庭へ行く。住居の西方に牛小屋、墓、炉と竈がある棟の北方にトイレの

小屋、とり小屋があり、住居西側から柵がそれらを大きく囲むように設けられ、住居東側まで続いている。住居西側の脇には柵の内側と村の道を行き来できる戸がある。

住居と周囲の生活空間：スカとコッチョンタを結ぶ軸線のほぼ中央の、軸線より炉と竈がある棟の側にジェッタが立つ。炉と竈がある棟の周囲にのみ、付属屋が建っており、スカとコッチョンタを結ぶ軸線上には付属屋や荷物は置かれていない。特にコッチョンタの北側外部の底の下には農具や洗濯物、空の棺桶が置かれているが、軸線避けるように置かれている ④．

スカとコッチョンタのある棟の東側妻面にはコッチョンツァを中央としてスカ側隅に長テーブルと長椅子、コッチョンタ側隅に寝台が置いてある。

村の道からの出入り口の戸に近い東側の位置に煮炊きをし、暖をとる炉がある。周りには椅子や鍋が点在している。炉と戸の延長線上に薪置き場がある。炉からコッチョンツァを通る延長線上にはジェッタがある。住居南東隅の炉に近い位置にある竈と炉のおおよそ延長線上には円卓を囲む場所、水場、庭、畑の作物が順に並んでいる。

住居の村の道に面しているスカ側壁面には物は一切おかれていない。一方で柵に囲まれた内側や、石垣の上の壁面に沿っては荷物や資材が多く置かれている。

体験：モンの正月には戸と村の道の間、薪置き場の前に煮炊きの火が焚かれ、村の人が椅子に座って談笑している様子を確認した。食事に招かれた際は梁に掛けられた円卓を下ろし、点在する椅子を集め、ご飯を囲んだ ⑤．

図1 住空間シートの例（ツィアトゥ・ロー [ce02]）